

『指導医からの一言』

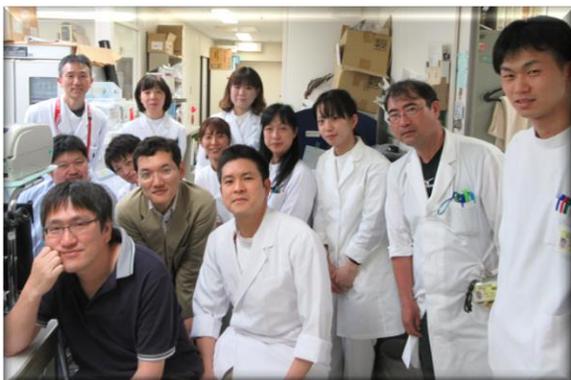
市村 浩一

病理診断科主任部長 兼 検査部主任部長

三人の常勤病理医、後期研修医二人という非常に人員として恵まれた環境で楽しく働いています。時間と自由と症例数は絶対保障します。

広島県では市中病院としては唯一の病理の基幹施設です。出身も医局所属も不問です。スタートしたばかりですから、参加者こそが作り上げていく愉しさもあるでしょう。臨床各科のレベルが高く、合同カンファレンスでは毎回興味深い議論になります。ありがたいことに近隣病院の個性的で愉快的な病理医たちも、垣根なく接して指導してくれます。地域の自発的な勉強会も楽しいことこの上ありません。

専攻医への道をこの病院で歩んでみませんか？心から歓迎します。



広島市立広島市民病院

～ 交通アクセス ～

【電車】

- JR 広島駅(山陽本線)方面から
広島電鉄 2系統宮島線 約12分 紙屋町東下車
徒歩 約7分
- JR 横川駅(山陽本線)方面から
広島電鉄 7系統 約13分 紙屋町西下車
徒歩 約9分

【バス】

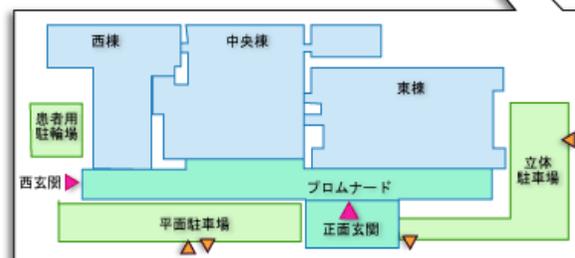
- バスセンター下車 徒歩 約7分

【アストラム】

- 県庁前下車 地下道より直通

【飛行機】

- 広島空港→バスセンターまでバスで約50分位



地方独立行政法人広島市立病院機構

広島市立広島市民病院

病理診断科 のご案内

基幹型・病理領域

当科は、以下の基幹型専門研修プログラムの基幹施設です。

	基幹型専門研修プログラム名等	期間
基幹施設	広島市民病院病理プログラム	3年
連携施設	岡山大学病院・広島赤十字病院・JA尾道総合病院 広島市立安佐市民病院・岩国医療センター	

20200601



最高の仲間と、
最高の場所で、
最高の研修を！



地方独立行政法人 広島市立病院機構
広島市立広島市民病院
Hiroshima City Hiroshima Citizens Hospital

〒730-8518

広島県広島市中区基町7番33号

電話番号: 082-221-2291 (代表)

FAX 番号: 082-223-5514 (代表)

<http://www.city-hosp.naka.hiroshima.jp/>

《病院見学等問合せ先》

事務室総務課人事係(研修管理委員会) 有馬・長谷川・児玉

e-mail: hiro-kensyu@hcho.jp

病理診断科志望のみなさんへ

市村 浩一 主任部長
(兼 臨床検査部主任部長)

専門医資格：日本病理学会病理専門医・研修指導医・
日本臨床細胞学会細胞診断指導医・死体解剖資格・医学博士

専門分野：悪性腫瘍の病理、(肺・リンパ腫・皮膚)

山崎 理恵 部長

専門医資格：日本病理学会病理専門医・研修指導医
日本臨床細胞学会細胞診断専門医・臨床研修指導医・死体解剖資格・医学博士

専門分野：外科病理組織診断

大西 信彦 医師

専門医資格：死体解剖資格
医学博士

専門分野：外科病理組織診断

～研修プログラムの目指すもの～

広島市民病院病理診断科は、2018年の専攻医制度スタートに際し、基幹施設とする専門研修プログラムを作成しています。大学病院以外では数少ない市中病院の基幹施設です。(中国四国地方では倉敷中央病院と当院だけです)従って出身大学や医局所属を問いません。

指導医のみならず近隣病理医との交流、市民病院ならびに連携病院による多彩な症例により安定して確実な診断を行える技能を習得することに重きを置いています

一人の専攻医を常に複数の常勤医が指導、あるいは気軽に相談できる雰囲気になっています。市民病院ならではの利点の一つには、カンファレンスをはじめ臨床各科との距離が近いことが挙げられます。専攻医を臨床医の信頼に足る病理専門医にする得難い環境だと思っています。同時に広島県下で定期的に行われている市中病院間の気軽に自由な検討会へ参加も勧めます。また広島大学病院、岡山大学病院のプログラムの連携病院でもあり、相互の専攻医の交流、勉強会への参加による幅広い考え方を身に付けることが可能です。大学の先端的な知識、市中病院の多彩な症例の双方が習得可能な状況にあると言えます。

疾患の内容としても、組織診断が年間12000件、細胞診断9000件を超える大規模病院であること、他にも大腸癌、乳癌に特化した安佐市民病院、造血系腫瘍などの症例が集まる広島赤十字・原爆病院など、広島地区の中核病院と連携していることで、豊富な症例を経験できます。専攻医の年次や習得状況に応じてこれらの病院の中から適切な環境の病院に派遣することにより、幅広い種類の症例の経験を積むことが可能です。希望によっては、岡山大学との連携により大学院への早期進学も選択肢の一つです。

専門医研修基幹病院および研修連携施設



《研修プログラム》

パターン①

- 1年目：基幹施設
- 2年目：基幹施設+連携施設1群または2群(週1日+剖検症例)
- 3年目：基幹施設+連携施設2群(週2日+剖検症例)+連携施設3群(剖検症例)

パターン②

- 1年目：基幹施設
- 2年目：基幹施設+連携施設1群または2群(週1日)
- 3年目：連携施設2群(週4日)+基幹施設(週1日)+連携施設3群(剖検症例)

パターン③

- 1年目：基幹施設
- 2年目：連携施設1群+基幹施設(週1日)+連携施設2群および連携施設3群(剖検症例)
- 3年目：連携施設1群+基幹施設(週1日)+連携施設2群および連携施設3群(剖検症例)

パターン④

- 1年目：基幹施設
- 2年目：基幹施設+連携施設1群, 2群(週1日)
- 3年目：連携施設1群+基幹施設(週1日)+連携施設2群および連携施設3群(剖検症例)

診療実績

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
組織診総数	10,879	11,160	11,416	11,854	12,100
術中迅速組織診	1,182	1,130	1,080	992	1,044
細胞診総数	13,947	13,802	13,496	13,105	11,154
術中迅速細胞診	99	93	90	123	87
病理解剖	15	16	18	13	14

20200626